

令和4年度

南丹市まちづくりを考える
タウンミーティング

令和5年2月



南丹市 NANTAN CITY

1. 開催概要

1. 開催の目的

市民と行政による協働によるまちづくりを推進するため、参加の皆様と活発な意見交換を行うことで、お互いの意思疎通を図り、地域の課題の発見と将来に向けて持続可能な地域づくりを共に進めていく第一歩とすることを目的に実施しました。

2. 実施方法

従来の市政懇談会の手法を見直し、懇談会に市長が出向き感じている地域の課題を提案し、協働員と市長によるフリートーキング方式。

意見交換については、陳情・要望を目的としたものは除き、地域在住の方等で、自主的な取り組みの発表や課題についての掘り起こしなど、将来へのまちづくりの足掛かりとなる建設的な意見の説明できる方も同席できることとしました。

3. テーマ

市長と話したいテーマを事前に設定し懇談しました。

「地域が抱える課題に地域住民自身でどう取り組んでいるのか」

4. 参加対象

園部ブロック、八木ブロック、日吉ブロック、美山ブロックのブロック単位での開催としました。

まちづくり協働員のほか、地域の方および役員の皆様等に限定した少人数での開催しました。

5. 開催日程・参加人数

園部ブロック、八木ブロック、日吉ブロック、美山ブロックのブロック単位の合計4回で開催しました。

地区	日程	会場	参加人数
園部ブロック	2月7日(火)	市役所 本庁	6人
八木ブロック	2月17日(金)	八木市民センター	5人
日吉ブロック	2月10日(金)	日吉支所	7人
美山ブロック	2月14日(火)	美山文化ホール	9人

※ 開催時間は全会場、午後7時30分から1時間30分程度

2. 意見交換の内容

【参加者の主なご意見】



- ・ 駅とが離れすぎている。
学生さんに聞いてても駅から大学行って帰ってるだけで、まちの中はあんまり関係ないと。駅を中心にまちづくりができていない。そこが解決すればもっと有効な手段となるのでは。
- ・ 園部ブロックの地域では、小学校と中学校と高校が歩いていける地域に固まっている。そのよさを生かして学校を核とした地域連携づくりをしたい。そして若い人の定住、観光、農業、まちおこしへつなげていく。
- ・ 考えて悩んでまちづくりを。地域からのまちづくりでは考えるのを辞めてはいけない。
- ・ 駅前を活用した地域活性化、ブランド化の発掘、人を呼び込む施策を。
- ・ まち中と市まち化調整区域では問題点や課題が違う、周辺はやはり拠点となる施設が必要であり、常に自分たちでは何ができるかを考えている。
- ・ 総合振興計画の積極的な発信を行う一方、有効な手段として地区計画の作成と推進、モデル地区として地域別の具体的な取り組みが必要。
- ・ 地域の達成したい目標ややりたいことを決めてから具体的アクションを起こす。
- ・ 地域がお互いに共通連携して、それぞれ得になる取り組みを模索する。
- ・ 後継者不足の問題が顕著である。この先5年後、10年後を考えて、その間にどうしたらいいのかある程度の答えを出していく必要がある。
- ・ 地元でやる気のある3人が寄れば事業が動く。小さい所から動かしていく。
- ・ 市バスを、鉄道と連動させたり、目的地を限定した運行や、市の施設にすぐに行けるようにするともっと乗る人が増えるのでは。
- ・ 参加対象を絞ったイベントの開催、シンボルロードでVRスタンプラリーを開催したり、あるものを活用したまちづくりと地域活性化の手法を。
- ・ 学生の柔軟なアイデアは必要。学生の集まる場所から地域と協働したまちづくりの仕組みをつくる。
- ・ バイクツーリング、自転車ツーリングがこれからの可能性が大きい。色々なイベントやツーリングコースを作って南丹市を知ってもらう。
- ・ 南丹市が全国的に有名になった事象、氷点下や最高気温など有名になったことを上手く利用して南丹市を知ってもらう。

【参加者の主なご意見】



・南丹市の危機管理体制があまいのではないか。災害に対しての危機感が薄くなっている今日、地域が自ら自主防災組織を作る機運が出てくるような行政のサポートをお願いしたい。

・開発や市まち化を進め市民や法人を増やすなど、もっと市の収入財源を増やす手法や取り組みを検討をする必要があるのではないか。

・子どもへの支援が手厚く整ったまちだと思うが、卒業後はほとんどが大学進学などでまちを出ていく。子どもたちが市外へ出ていかない方法は必要だと思う。

・保育士が他市まち村へ流れていると聞いている。人材確保のため待遇条件面の改善が必要ではないか。

・八木、園部の駅の近くに降りてすぐのところにスタジアムの大きな施設を。若者が八木に来て、利用してくれるような運動施設があれば良いと思う。

・近くの広場では学校帰りの子どもたちで人が溢れている時もある。子どもたちが遊ぶ場所がないので、空地や跡地を活用して児童公園をつくってはどうか。

・土地も安く近隣のまちへも近い利便性が良い。宅地などの開発を推進して整備すれば、若い人たちにも人気が出るのでは。

・賃貸アパートが増えてきてはいるが場所が偏っており、お試して住んでみたいと思ってもできない。空き家、空地活用などが必要では。

・各委嘱委員などボランティアは限界。自治会、民生委員等、役員を受けることが難しくなっている。自治会としてすべきことと、しなくていいことを選別するべきと思う。

・JRの本数が減ったのは非常に残念。特に市外の方からの南丹市に対する見方が厳しくなり、交通が不便となり京都市内へ出ていく学生が多くなった。引き続きJRへの要望を。

・高齢者の交通手段について、何か効率的な手段を考えられないか。ちょっと買い物に出る時に乗合するなど、時代に合わせてお互いを助け合えることができないか。

・観光ハイキング等、城山など今ある資源を活用して、歴史自然環境の活性化を進めてはどうか。

・城山を史跡指定してはどうか。ふれあいハイキングの実施など、お金のかからない仕組みを考えてはどうか。

【参加者の主なご意見】

・定住人口・交流人口を増やしていきたい。郷土料理の復活、空き家対策、自然の山野草の再発見芸術散歩などの取り組みを行ってきた。

・地域を発信することや、若い方々と地域と集落が一緒になって、集落の垣根をどのようになくしていくかが一番大きな課題。

・地域でワークショップを重ねることで、取り組もうという10のテーマが絞られた。これらを一つ一つ具体的に組み組んで実績を作っていく。

・地域の産業はやはり農業、農林業がベース、エコ農業の推進とブランド化をしていきたい。昨年から大学と一緒に取り組みをしていこうと働きかけている。

・移住者は祭りや運動会など地域住民が顔を合わせる機会を求めている。関係づくりをすることが大切だと感じている。

・地域で高齢者の買い物問題に取り組むなどで、地域が前向きになってきた。一つずつ成功を重ねて今後実績を作っていく。

・今ある施設を、いかに他の方々や市外の方々と交流する場所に活用していくか、どのように利用していくかが、地域のこれからの課題。

・過疎化、高齢化が進み単独の集落で完結できる時代ではなくなっているように感じる。集落連携を図っていくのがこれからの課題である。

・農地が遊休荒廃化してきている。作業に関わってくれる人たちをどのように取り込んでいけるのかが課題。

・集落支援員の協力や取り組みを通して地域にまとまりがでてきた。

・車を登録してもらい、利用者と支援者を繋げる移動支援に取り組んでいる。

・空き家を手放してもらう手法や、何かノウハウみたいなものを検討してほしい。

・バスの便が良いので、住民がバスを活用して買い物や食事に行ってもらえるようバスに乗る勉強会をしたいと考えている。

・空き家をなかなか手放してもらえないという現状がある。空き家調査と、それをバンクに誘導・応援するような仕組みが必要ではないか。

・地域景観保全のためメガソーラーの設置規制をしてほしい。

・地域情報化計画にも高齢者に対するICT対策をいれてほしい。

・地域の農業と農産物のブランド化。売れる農産物を作っていくとすると、やはり売り先、受け入れ先が一番の問題で課題である。



【参加者の主なご意見】



- ・へき地の送迎保育サービスを確立して保育所の課題解消を考える。全国の先進地になれる。
- ・保育所など働き方改革、メンタルのフォローなど、人材確保をしていくため職場環境を改善し働きやすい環境の整備が必要。
- ・地域の取り組みを市が支援していただいて、良い取り組みを全国に発信していく。
- ・お金がなくても、どんなまちを目指しているのか理念を掲げることは大事であると思う。それを見て聞いて人が集まる。
- ・空き家と呼べない空き家が増えている。持ち主の申し出を待つだけでなく、行政も積極的に関わり、地域の担い手となる人に住んでほしい。
- ・移住者だけでなく、住んでる地域の方々の考え方も変えていく必要があると思う。
- ・若者が住めるように、市営住宅の入居基準を見直したり、単身者住宅を用意するなどしてまちの活性化を目指す。
- ・上水道の関係で、新築の物件を建てられないことがある。移住定住にはインフラの充実が必要である。行政からの必要な支援をお願いしたい。
- ・山村留学の子どもとのコミュニケーションが、地元の子に非常に良い影響を与えてくれた、受入側の子どもへの能力アップに繋がった。
- ・観光客など来ていただいても土日のバス便が少ない。来訪者への利便性向上のためバスのダイヤ問題の改善を。
- ・少子化になり小学校でも不登校が増えている。子どもだけの責任だけではない。何とか子どもたちの環境を変えるなど、メンタル的な対応を考えていくことが必要。
- ・南丹市の子どもが、南丹市内の通いたい学校に通えるようなバス通学ダイヤにしてほしい。
- ・地元仲間や同世代のメンバーが、自ら改善のために動きだしていることが地元に住む人の活力や考え方を変わる力となっている。
- ・広報戦略にもっと力を入れて、LINE、SNS、Youtubeなどもっと積極的に使って効果的に進めてほしい。
- ・今回のタウンミーティングで、出し合った課題や問題が一つでも解決できるように、また少しでも何かが進められるような機会にしてほしい。
- ・移住定住のアイデアがあれば、市だけで考えることは難しい。地域と一緒に考えていきたい。

3. 參考資料

5つ

プラスの柱 進める「5つの柱(プラス1)」

1)子育て環境の充実、若者定住のまちづくり

保育所・保育人材確保、学童保育施設整備、雇用と住宅整備などを積極的に進めます。
・周辺地域の人口減少に対応し、UターンやIターンを進めるため、定住促進事業を行います。
・子育て支援や子育て環境の充実に継続して推進するとともに、保育士不足から生じている待機児童解消のため、人材確保を進めます。

2)農林業振興・企業誘致による地域や産業の活性化

ブランド農産物や特産品・企業の誘致や立地基盤づくりなどを積極的に進めます。
・市街化区域やその周辺の住宅開発を誘導し、人口の集積を目指すとともに、京都縦貫道インター周辺などをはじめ、日吉・美山にも新たに企業が立地できる基盤を整備します。
・新規就農者や担い手育成を進めるとともに、南丹市農産物ブランド化の一層の推進や特産品づくり、流通販売の支援を進めます。

3)安心な暮らしを守る福祉や防災まちづくり

介護人材確保やフレイル予防サロンづくり、児童等虐待への対応などを積極的に進めます。
・福祉施設等における介護人材の確保のための支援を行います。
・障がい者など生活弱者の支援を行うとともに、女性が活躍できる南丹市づくりを進めます。

4)地域の個性(特徴)を生かしたまちづくり

市民主体のまちづくり活動支援、個性を生かした産業振興や定住推進などを積極的に進めます。
・まちづくりに市民が主体的に関わる「まちづくりミーティング」や「まちづくりチーム」(仮称)の活動を進めます。
・歴史や自然環境を生かした文化や観光振興を一層進めます。

5)教育・文化と人権尊重のまちづくり

コミュニティスクール、人権推進、歴史活用、文教施設大規模改修などを積極的に進めます。
・学校施設・文化施設の大規模改修を計画的に進めます。

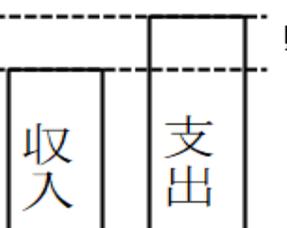
プラス1)行財政改革に基づくまちづくり

公共施設の再編整理、民間ノウハウや民間活力の導入、制度改革などを積極的に進めます。
・南丹市の非常に厳しい財政を踏まえ、民間の活力も生かし、行財政改革を強く進めます。

●予算が組めない

予算規模 R5:251.5億

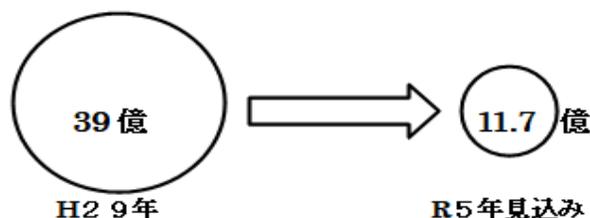
(庁舎、施設改修など 27.1 億)



貯金を崩して充当

R5年は20.5億

●貯金が減り続ける（財政調整基金）



●収入減少（普通交付税合併特例措置 Max19.3 億円がゼロ）

人口▲16.4%減少（市税 47.4 億⇒40.5 億）

H7 37841人 ⇒ R2 31629人 (R5 30440人)

どうして苦しい

★行政サービスのスリム化（ダウンサイジング）ができていない（合併の弱点）

八木公民館、社協デイSセンター、CATV、民間保育所、氷室の郷、スプリングス日吉

★有利な財源（合併特例債）等で事業追い込み（空白の12年、期限はR7年）

主な追い込み事業：B&G体育館、園小体育館、八木西&東プール2か所、八木駅舎改築、園部東口、民間保育所誘致事業、市営住宅改修3か所、保育所改修、アスエル園部、美山文化村、子ども家庭サポートセンター、学童保育所施設3か所、議会棟屋根、こむぎやま健康学園屋根、殿田中、ゆうゆう日吉、美山中校舎、美山小校舎、庁舎増築&改修、国際交流会館、火葬場、学校給食施設

今どうしても必要なことをやっておかないと、後年には財源がない。

★社会保障費（高齢者・障害者等々）急激な増加。

★職員定数削減もニーズ対応の年度任用職員増加：人件費削減不十分。

★広域で施設やサービスが分散配置で、行政効率が悪く、市の負担が重すぎる。